

教育理念・目標

人が地域社会において豊かで自立した生活が可能となるためには、人の生活を科学する「生活支援科学」というコンセプトのもと、支援対象者の「心の領域」を支える心理的支援が重要である。したがって臨床心理学専攻では、「現代社会における心の相談・支援のための高い倫理観を有し、臨床心理学の精深な学識に基づいた豊かな人間理解力を身につけるとともに、それを活かした臨床実践ができる高度専門職業人を養成する。」ことを教育理念・目標とする。

【学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）】

臨床心理学専攻博士前期課程は、本専攻の教育理念・目標に掲げる、以下に示す能力を身に付け、所定の単位を修得し、修士論文の審査及び最終試験に合格した者に、修士（臨床心理学）の学位を授与する。

身に付けるべき能力

1. 主体的・自立的に行動できる確かな人間力を身に付けている。
2. 教養ある専門職業人としての臨床心理学の基礎力を身に付けている。
3. 専門職業人として心理実践が行える汎用的能力を身に付けている。
4. 地域生活を支援し、創造する能力を身に付けている。

【教育課程編成・運営方針（カリキュラム・ポリシー）】

教育課程編成の方針

臨床心理学専攻では、高い倫理観と豊かな人間理解と支援のための高度な学識と実践力、さらに臨床実践研究のための能力を備えた「心の相談・支援の専門家」として活躍できる人材を養成するために、「共通」、「基礎分野」、「展開分野」、「研究演習」の4分野からなる教育課程を編成している。

本専攻では、公認心理師の受験資格を得るために必要な科目、および臨床心理士受験資格取得の要件となる必修科目と選択科目を「基礎分野」と「展開分野」に配置している。なお、本専攻は、公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会の第1種指定大学院に認可されている。

教育課程の運営方針

本専攻では、必修科目24単位、選択科目より12単位以上、合計36単位以上を修得する他、希望する資格取得にあわせて適切な科目を履修することを履修モデル等で明示している。

【入学者選抜方針（アドミSSION・ポリシー）】

本専攻は、専門分野の学理を探究したいと希望する者とともに、多角的な視点から臨床実践研究を行うことを希望する者にも門戸を開いている。本専攻の入学者選抜にあたっては、以下の要件を満たす者を積極的に受け入れていく。

1. 人間や社会に強い関心を持ち、心理学に関する学問的基礎知識のある者。
2. 対人的支援を実践する現場経験又は実習・ボランティア等の経験があり、その経験をふまえて臨床心理学についての高度な専門的知識と理論・技能を習得して、臨床研究活動や実践活動を通して社会に貢献したいと考えている者。
3. 人の心を支援することをふまえた倫理性や表現力を有する者。